

# 私たちの考える 理想の地域風景

誰もが望んだ場所で心豊かに暮らすために

## ①訪問・連携

保健、医療、福祉など包括的なアウトリーチ支援の充実。さらに、専門職同士の連携にとどまらず、地域の中に様々な連携があるまち。

## ②参加の機会

多様な働く場、好きなことを発表できる場、ピアとして活躍できる場、みんながごちゃまぜに交流できる場など、たくさんの参加の機会があるまち。

## ③対等・公平・協働

対等な関係の中で、誰もが自由に発言でき、一人ひとりの意見が尊重される。障害のある人、ない人、支援者、行政機関などが公平な配慮がある中で協働して暮らしを支えあうまち。

## ④いろいろな私

私は私。一市民としていられる場所。時に支援関係があり、サービス利用者という面もあれば、誰かをサポートする面、地域の中で活躍する面もある。立場はその時々によって変わるけれど、いつでも、私が私らしくいられるまち。

私が暮らしているまち。

この中のいろいろなシーンを行ったり来たりして、すごしています。このまちの風景は、ほんの一例ですが、そのどんな場面においても、様々な人とのつながりを感じることができます。

一人でいても孤独ではないまちです。

そして、いろいろな顔を持つ私。サービスの利用者としての私。

「ピア」としての私。ボランティアスタッフとしての私。

その時々によって、周りにもいる人も変わります。

その一例を紹介します。



## A モールの中の相談室



## B 身近なコンビニ

私がよく行くコンビニ。雨の日に、傘を持たずにコンビニに行ってしまいました。そんなときも、「これ使って」と傘を貸してくれます。困ったことがあったときは、駆け込んでいます。



## C アウトリーチ支援



アウトリーチ支援が充実していて、私の家での暮らしをサポートしてくれています。訪問してきてくれるワーカーさんの中には、ピアスタッフさんもいて、趣味の話をよくします。私の子どものことも気にかけてくれ、子どももよく話をしています。

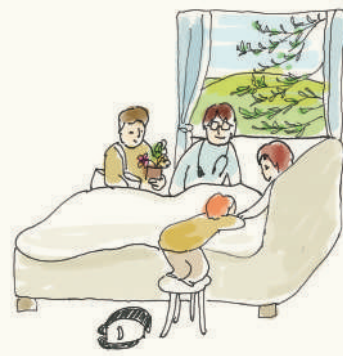
## D 私の居場所となるカフェ

家の近くにあるオープンスペース。一人ですごしたいけど、仲間の気配を感じたいとき、誰かとおしゃべりしたいとき、その時の気分によって、好きなように過ごせます。音楽を奏でている人や、本を読んでいる人もいて、自分の「好き」を持ち寄って、いろんな人と過ごせます。



## E 病院

息子は、学校が終わって、好きな野球をした後、会いにきます。お医者さんは、息子の話もよく聞いてくれます。



私の目を見てしっかり話を聞いてくれます。私も先生に、自分の気持ちを安心して話せます。家族相談の日もあります。



病院の中のカフェ。ほっと一息できる場所。私も好きな時に好きなものを買うのがうれしいです。



**A** 人が行きかう場所、モールの中にも相談室があるので、私も行きやすいです

**B** 私がよくいくコンビニ。店員さんがいつも気にかけてくれます

**C** 訪問診療やアウトリーチ支援で私をサポートしてくれます

**G** 自分を表現できる素敵な複合文化施設があります

**E** 私や家族の話をしっかり聞いてくれる病院

**F** 近くの広場で開催されるマルシェ。疲れたら休める場所もあります

**K** 遠くに住む人も、バスがあるから、自分の好きな病院に通えます

**I** 「くらしの相談室」に時々行きます。ご近所さんの挨拶の声も響きます

**H** 学校では、私と子どもの話をよく聞いてくれます

**J** コミュニティの中に私が働く多様な場があります

**D** 私の居場所となるカフェ

## H 学校

学校では、先生方が、私と私の子どもの話を聞いてくれます。私がお世話になっているワーカーさんも同席してくれて、困りごとを整理して話してくれます。私の子どもも、学校で困難を抱えています。スクールソーシャルワーカーさんも一緒に聞いてくれるので、安心です。



## F マルシェ



家族でマルシェに行ったり、出店したり。自分のお店を出せるのもうれしいです。同じ病気をもつ一人暮らしの友達や、仲間と一緒に、つくった作品を販売したりしています。



## G 複合文化施設

図書館、ギャラリー、カフェ、市民活動センター、多目的ホール、運動場、店舗などがあり、様々な「好き」を実現できる場です。多職種で話し合える場もあります。全国どこでも受けられる障害福祉サービスを利用しながらも、その地域独自の社会資源と繋がることで、お一人おひとりの「希望」の実現に近づくのではないかと考えています。

絵を描くことが好きな私。地域のサークルにも入っています。通っている福祉施設のワーカーさんに、絵を発表してみたいと相談しました。すると、このギャラリーで、展覧会を開けることに！お客さんに、絵の説明をするのが緊張しました。



ここは、自分を自由に語る場。私は、同じ立場の仲間と話すことができるピアサポートグループの集まりによく参加します。時には、障害のある私と同じ立場の人、支援者の立場の人、民生委員さん、病院の先生など、立場を超えて話し合うこともあります。どの集まりでも、「対等な関係」は守られています。



## I くらしの相談室

団地の中にある「くらしの相談室」にも時々行きます。ちょっとした相談を気軽にできます。





# 医療

E

私や家族の話を  
しっかり聞いてく  
れる病院

K

遠くに住む人も、  
バスがあるから、  
自分の好きな病院  
に通えます



退院した時の様子。  
退院まで、一緒に考えてくれたサポーター、退院後の  
生活を見守ってくれる仲間がいます。



A

人が行きかう場所、  
モールの中にも相  
談室があるので、私  
も行きやすいです

B

私がよくいくコン  
ビニ。いつも気にか  
けてくれます

C

訪問診療やアウト  
リーチ支援で私を  
サポートしてくれ  
ます

I

「くらしの相談室」  
に時々行きます。  
ご近所さんの挨拶  
の声も響きます

# くらし・ 住まい



退院後の生活は、家では、好きなお菓子を食べながら、好きな映  
画をみてすごしています。  
夕飯の買い物に商店街へ出かけ、帰宅後は、ピアスタッフさんと  
一緒に、料理をします。  
通院は身近なクリニックで、丁寧に先生が話を聞いてくれます。



# 社会参加・ 地域活動

D

私の居場所となる  
カフェ

F

近くの広場で開催  
されるマルシェ。  
疲れたら休めると  
ころもあります

G

自分を表現できる  
素敵な複合文化  
施設があります

H

学校では、私と子  
どもの話をよく聞  
いてくれます

J

コミュニティの中  
に私が働く多様  
な場があります

障害のある私や家族、精神保健福祉士さん、民生委員さん、通っている就労支  
援の事業所のワーカーさん、よく行く八百屋さんやコンビニの店員さん、お医者  
さんなど、様々な立場の人が集まって、私が地域の中で心豊かに暮らせるよう、  
一緒に考えてくれています。これは話し合いの様子です。私は緊張しながら、  
やりたいことを話しています。



自分もさうと、  
ほろすは初めて...



話し合いの場は、時々お外になる  
こともあります。ピクニック気分  
で参加。周りには、いつもの安  
心できる人たちがいます。



ご近所で集まって、季節のイ  
ベントを楽しむ時もあります。

この風景は、日々、更新されていくものだと考えています。

あらためて、今、何を思いますか？

朝日新聞厚生文化事業団が実行委員会とともに、2022年7月31日にオンラインで開催をした、ワークショップ「みんなで考える『精神障害にも対応した地域包括ケアシステム』」で、精神障害のあるご本人の立場、家族の立場、両者を支える専門職の立場の方々の声を聴き、参加者とともに「理想の地域」を考えました。そこでいただいた多くのご意見をもとに、「私たちが考える理想の地域風景」をまとめました。

精神障害のある人やその家族が、ご自身が望む場所で、心豊かに暮らしていける、そんな理想の風景です。

この風景が、これからも、皆さまお一人おひとりが、どのような地域を目指し、どのようなアクションを起こしていくのか、考えていくきっかけになれば幸いです。

ワークショップ  
「みんなで考える『精神障害にも対応した地域包括ケアシステム』」実行委員会

